小学生のおしゃれ意識

伊地知 美知子*

The Fashion Sense of Schoolchildren

Michiko IJICHI

抄録

関東地区の小学校に通う学童384名を対象に衣生活に関する調査を行い，中学年と高学年，男女を比較しながらおしゃれ意識について考察した．調査内容は通学服の選択方法，洋服の購入方法，洋服の好み，日常の着装行動などである．各質問項目ごとにそれぞれ統計的検定を行い検討した結果，総体的にはおしゃれ意識は男子よりも女子，女子では中学年よりも高学年のほうが高いことがわかった．男子の場合学年差による違いは殆ど見られなかった．

Ⅰ　はじめに

おしゃれに対する興味，関心は年々低年齢化してきているが，小学生時代は高学年になるにつれて，おしゃれ意識の変化は特に大きいと考えられる．また自己概念の発達においては女子児童の方が男子児童よりも進んでおり，被服に対しても，女子児童の関心が高いことが報告されているが[1)]，小学生のおしゃれ意識の調査研究は少ない．そこで小学６年生と３年生を対象に，衣生活に関する調査を通し，学年差，男女差の面からおしゃれ意識について考察した．

Ⅱ　調査概要

関東地区の公立の小学校に通う学童384名を対象に1999年12月に質問紙による調査を実施した．人数の内訳は３年生男子104名，女子82名，６年生男子106名，女子72名である．調査内容は通学服の選択方法（３項目），洋服の購入方法（５項目），おしゃれのポイント（７項目），洋服の好み（７種），日常の着装行動（11項目）などである．なお，回答のし易さから主に２件法（好き・きらい），（はい・いいえ）を用いた．

Ⅲ　調査結果と考察

１　通学服の選択

通学服の選択方法は３年生では，男子は「親が決める」，女子は「自分が決める」，６年生になると男女ともに「自分が決める」割合が高くなっている（図１）．なお，独立性の検定により，学年間，男女間の関連を調べた結果，危険率５％で有意となったものには＊印を１つ，１％で有意となったものには＊印を２つつけてある．通学服の選択については６年生の男女間を除くすべての関係に有意差がみられ，男子，女子とも学年が高くなるにつれ，また３年生では男子よりも女子のほうが自分で決める割合が高くなっていた．

２　洋服の購入方法

洋服の購入方法は，男子の場合「親が選んで買ってくる」が３年生では43%，６年生では50%と半数近くを占めているが，女子では両学年とも20%前後と低く，「親といっしょに行って買ってくる」が３年生で65%，６年生では76%とさらに高くなっている（図２）．し

*いじち　みちこ　文教大学教育学部

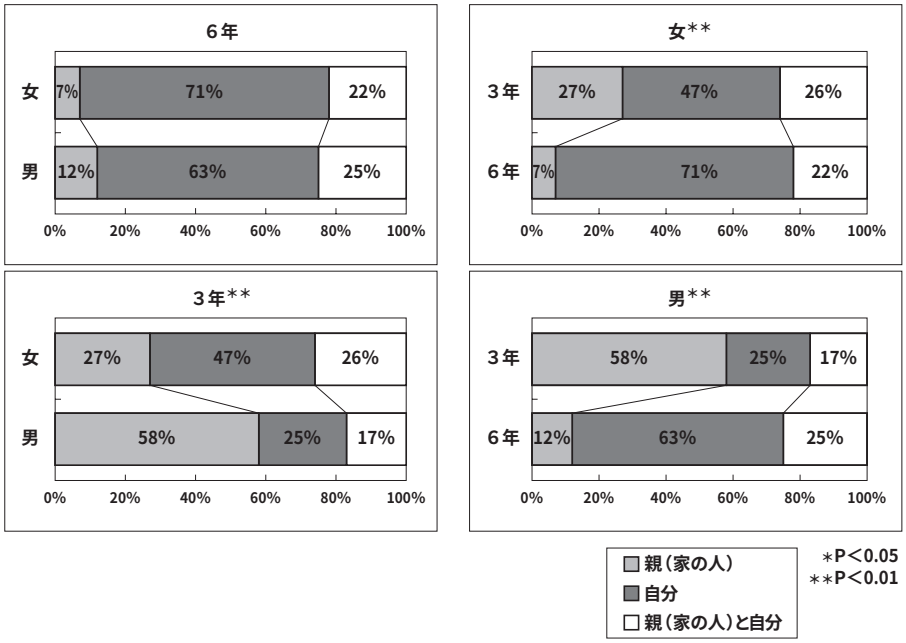

図１　通学服の選択

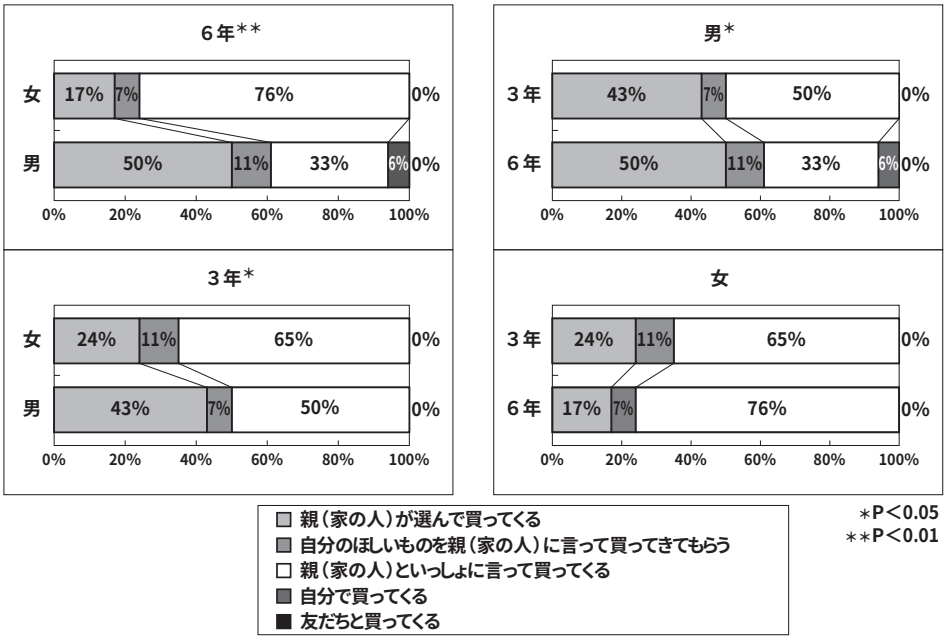

図２　洋服の購入方法

かし男子の場合「親まかせ」以外の残り半数は「自分のほしいものを親に言って買ってきてもらう」,「親といっしょに行って買ってくる」，また６年生の男子においては「自分で買ってくる」が６％あり，個人で購入する行動も見られた．前質問と同様に検定を行った結果，６年生の男女間で１％，３年生の男女と男子の学年間において５％の危険率で有意差が認められた．男子に比べて女子のほうが洋服購入についての関心が高く，購入時には自らも参加していることがわかった．

３　おしゃれのポイント

おしゃれで１番気を使う個所として髪型，アクセサリー，洋服，バッグ，靴下，靴，その他の中から1つを選んでもらった．女子では３，６年生共に洋服と髪型が大半を占めているのに対し，男子の場合，靴下や靴におしゃれのポイントを置いている者が30%近くあり，３年生においては髪型よりも靴にこだわりを持っている者の割合が高くなっている（図３）．髪型への関心は男女共に学年が上がるにつれ高くなっており，６年生男子においては洋服よりも上位となった．全体的には女子よりも男子のほうが色々な方向に分かれた．６年生の男女間で１％，３年生の男女間において５％の危険率で有意差が見られた．

４　洋服の好み

洋服の好みについては７種類の洋服をあげ，「好き」「きらい」のどちらかを選んでもらい，その割合をもとに学年差，男女差を調べるために母比率の差の検定を行った．図４はそれぞれの項目について，「好き」と回答した割合を学年別に男子と女子を比較したものである．なお，検定の結果危険率５％で有意とな

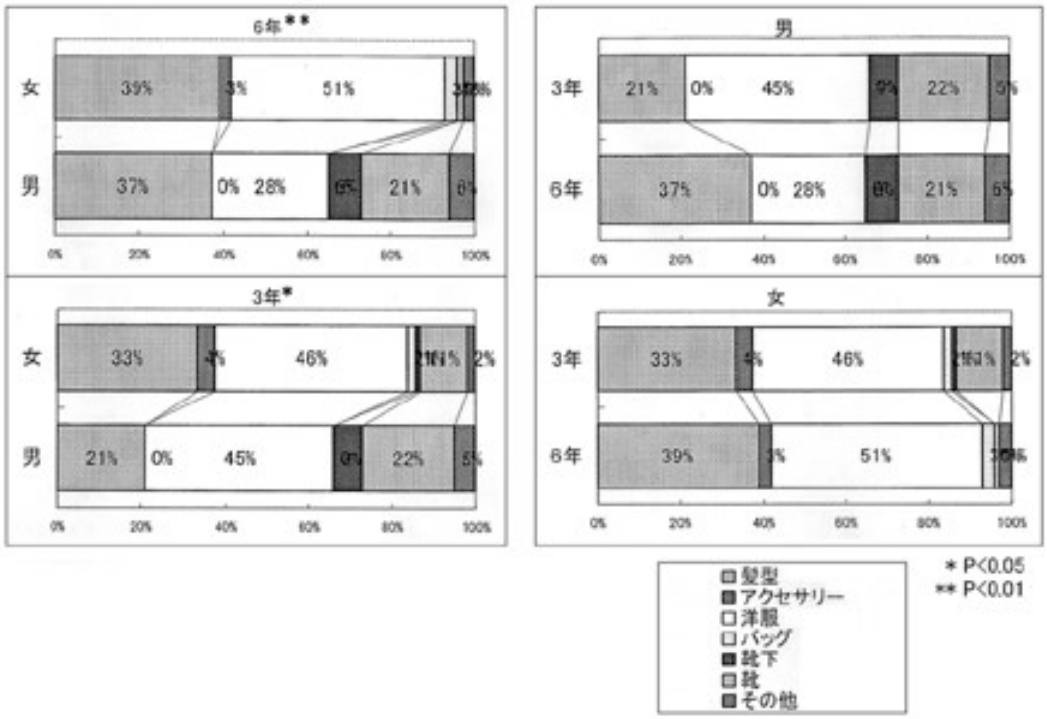

図３　おしゃれのポイント

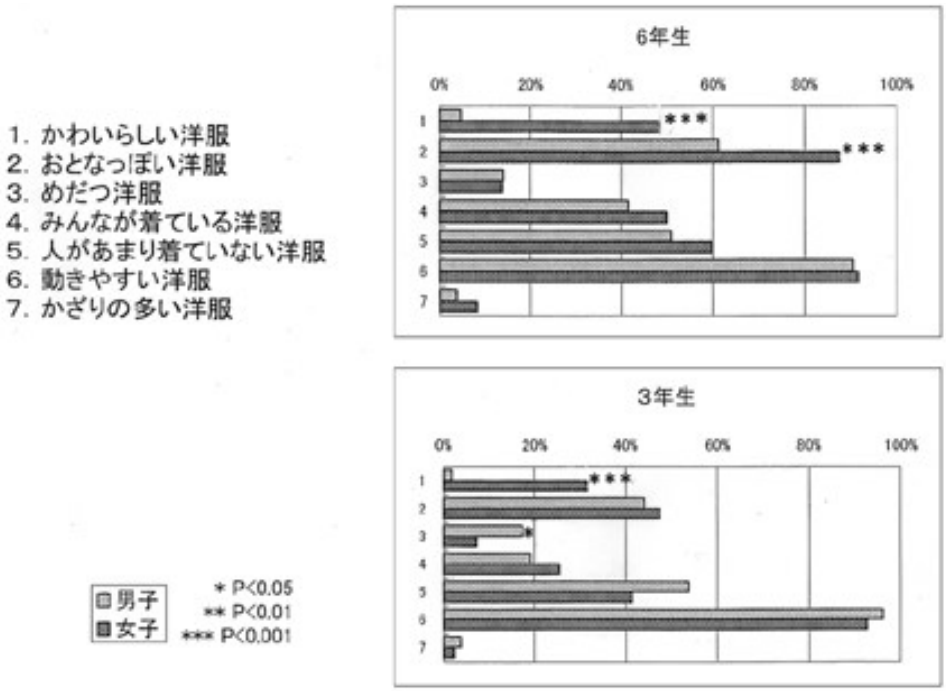

図４　洋服の好み（学年別）

ったものには＊印を１つ，１％で有意となったものには＊印を２つ，0.1%で有意となったものには＊印を３つつけてある．６年生では男女ともに上位から６番の「動きやすい洋服」，２番の「おとなっぽい洋服」，５番の「人があまり着ていない洋服」，４番の「皆が着ている洋服」の順に好きと回答した割合が高く，これらの洋服に対して半数，もしくは半数以上が好きと回答している．３年生では６年生と同様に６番の「動きやすい洋服」の男女とも90%以上が好きと回答していた．5番の「人があまり着ていない洋服」の男子のみの54%を除き，全体的に好きと回答した割合は低いものであった

母比率の差の検定により有意差の見られた項目を見てみると，１番の「かわいらしい洋服」には３年生および６年生の男女間，２番の「おとなっぽい洋服」には6年生の男女間，３番の「目立つ洋服」には３年生の男女間に有意差が表われ，３番を除いて男子よりも女子の方が「好き」と回答した割合が高くなっている．

図５は男女別に学年間を比較したものである．有意差の表れた項目は，男子の場合は２番の「おとなっぽい洋服」，４番の「皆が着ている洋服」，女子の場合は，１番の「かわいらしい洋服」，２番の「おとなっぽい洋服」，４番の「皆が着ている洋服」，５番の「人があまり着ていない洋服」で，いずれも３年生よりも６年生の方が肯定した割合は高くなっていた．なお，学年および男女に関係なく，「動きやすい洋服」については大部分の児童が肯定していた．

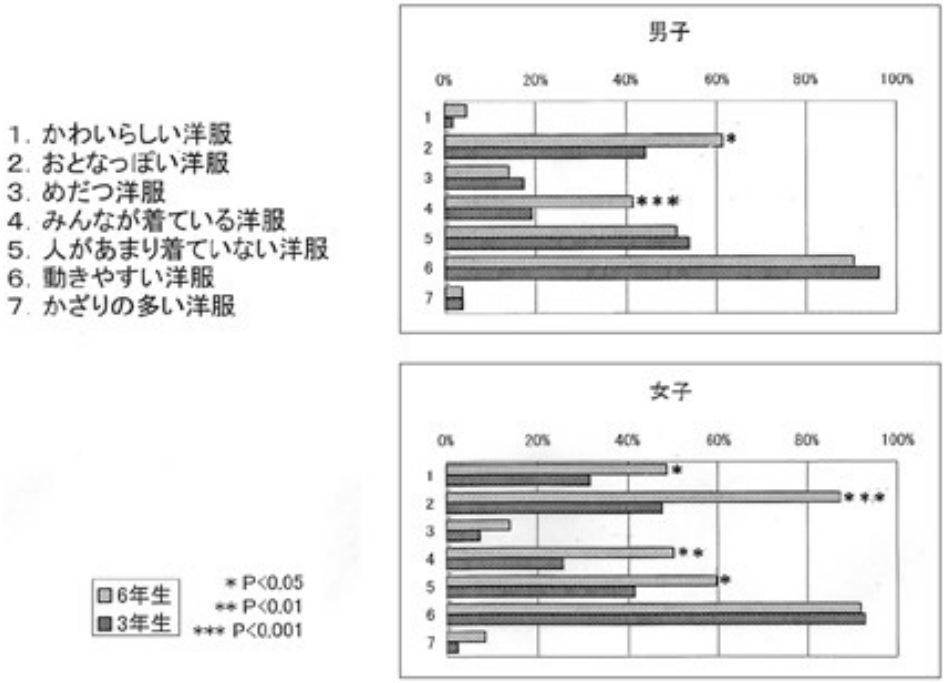

図５　洋服の好み（男女別）

５　おしゃれ意識

おしゃれ意識については，日常の着装行動に関する11項目をあげ「はい」か「いいえ」で回答してもらい，前項目と同様に母比率の差の検定を行った．学年ごとに男子と女子を比較した結果は図６に示す通りである．有意となった項目を見ると，６年生の場合は全項目が有意となり男子よりも女子がより多く肯定しており，おしゃれの関心度に明らかな差が見られた．３年生の場合は半分以上の項目に有意差が表れたが，１番の「お気に入りの洋服はありますか」の男子80%，女子の94%を除いては20%前後と肯定した割合は低いが，男子に比べると女子の方がおしゃれに対する関心は高い結果となった．

図７は学年間で男子と女子を比較したものである．男子の場合は全体的に肯定した割合は低く，母比率の差の検定で有意となった1番の「お気に入りの洋服はありますか」以外は学年間に有意差は見られず，10%にも満たない項目が多くあった．女子の場合は1番の「お気に入りの洋服はありますか」と11番の「友達どうしで相談して洋服を決めて着ることがありますか」を除いてはすべて有意な結果となり，３年生よりも６年生がより多く肯定していた．

このようにおしゃれ意識は男子よりも女子，女子では３年生よりも６年生のほうが高かった．男子は学年差による違いは殆どなく，おしゃれに関する興味，関心は女子に比べてかなり低い結果となった．

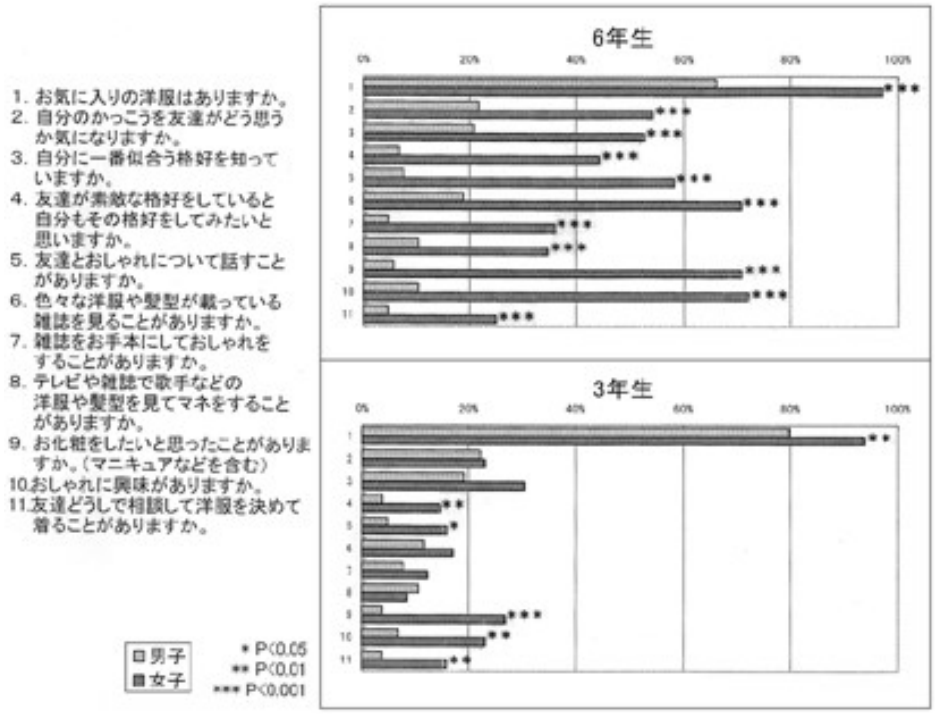

図６　おしゃれに関する行動（学年別）

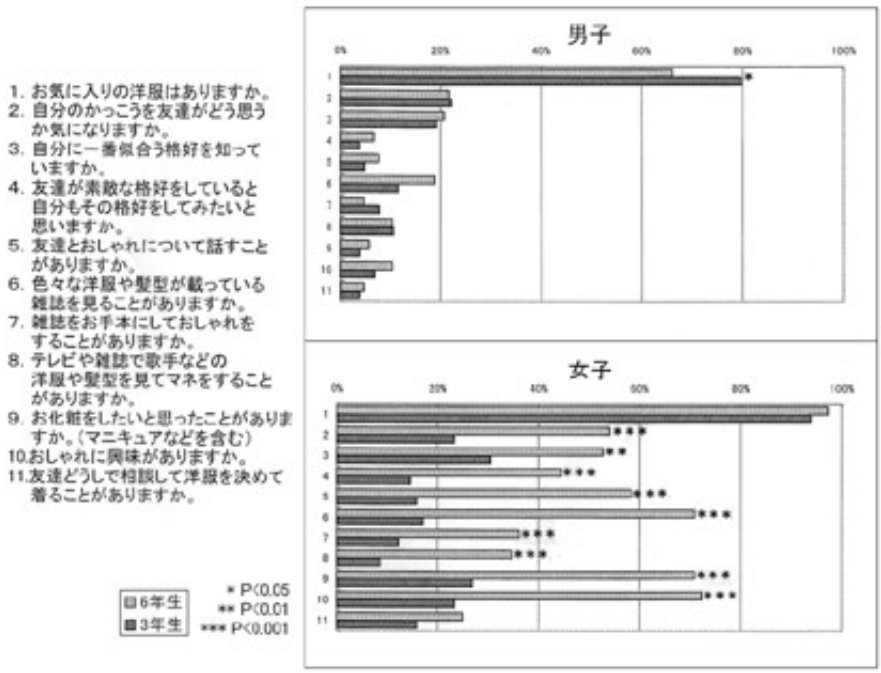

図７　おしゃれに関する行動（男女別）

Ⅳ　まとめ

小学生のおしゃれに関する興味関心について，３年生と６年生の学年間及び男女間を対比しながら考察した．通学服は３年生の場合，男子は「親が決める」，女子は「自分が決める」，６年生になると男女共に「自分が決める」割合が高かった．洋服の購入方法は全体的に「親が買う」または「親といっしょに買う」が多かった．おしゃれのポイントは全体的に洋服と髪型が多かったが，男子では靴をあげる者も多い傾向が見られた．

洋服の好みについては，母比率の差の検定により学年差，男女差を検討した．その結果，有意差の多く見られた項目は「かわいらしい洋服」，「おとなっぽい洋服」であり，前者については共に男子よりも女子，女子では３年生よりも６年生，後者については男女共に３年生よりも６年生，６年生では男子よりも女子が肯定する割合が高かった．日常の着装行動についても，洋服の好みと同様に検定を行った結果，おしゃれ意識は３年生では男女間にそれ程の差が見られなかったが，6年生では男女間に明確な差が見られ，女子はおしゃれに対する関心が強く表れた．女子の場合高学年になるにつれおしゃれに対する興味，関心が高くなることが顕著に示されたが，男子の場合学年差による違いは殆ど認められなかった．

付記

本報は日本家政学会第52回大会（2000年６月，文化女子大学）において発表したものを中心にまとめた．

調査の為にご尽力下さった小倉恵子氏，佐藤友紀子氏ならびに本研究をまとめるにあたりご指導いただいた共立女子大学小林茂雄教授に心より感謝いたします．

参考文献

１）杉山真理，小林茂雄：共立女子大学家政学部紀要　No.37，1991，p.p.55-60

調査対象校

埼玉県八潮市立大曽根小学校
埼玉県八潮市立大原小学校
埼玉県八潮市立八条小学校
東京都大田区立入新井小学校